―集団のメモ― 平成26年(2014年)12月20日[土]- 21日[日]|mmp×東京アートポイント計画「長島確のつくりかた研究所:だれかのみたゆめ」|テレビ研究室							
	中野	国広	川瀬	小澤	慎也	長島	須藤
雑談	靴・奥さん・結婚	青が似合う	中国地方出身。				チェルフィッチュの音楽編曲
創設理由						何年も前から、アトレウス家のプロジェクトをやってたとき、スタッフをどうするか、アーティストをどうするかってことを考え始めてた。アーティストを育てれば良いのでもなく、ただのスタッフをつくるのでもなく。その中間の、作り手と一緒にいろんなことを考えられるような人たちがなにか試せて、育つ場をつくらなきゃいけないと思った。 豊島区在住アトレウス家をやってたときに、構造ゼミというのをやっていて、それも同じ問題意識があった。コンテンツをつくるアーティストと、実務をまわすスタッフの間で、構造を考える頭がないといけないんじゃないかと思って。そのあたりが出発点。	
今の研究員を選んだ理由						ほとんど、カン。でも、アーティストでもなく、プロのマネージメントやる人でもない人たち、ある種の第三項をグループにしたいというのがあって、そこが基準。かなりその意図をわかって応募してくれた人が多かったので、迷った。結果として、カン。組み合わせ。バランス。演劇のキャスティングみたいだった。	
普段やってること＋何考えているか	元気になりたい？ 芝居って高いよね。 いま、ゲームの羽は300円なのに。 演劇は1本2000円はする。 比べちゃいけないものなのかな 自分は3500円に設定してる。それには理由があって。 学生は、芝居を見るために、半日働け。 大人は、飲み会1回我慢しろ。 3500円に該当するものの代わりに、こっちに来て。 なんかないかなぁ。飲み会1回我慢して、こっち来ませんか？それと同じくらいの価値はありますよ。	演劇は戯曲があって、戯曲に音楽の指定があったりなかったり、演出家が音楽を指定することもあるし。今回はどういうつくりかたをするかっていうことを先ず毎回考える。 それが面白い。音楽をつくっている	写真を撮る人。 風景を撮るのが好き。 主に木の写真が多い。 植物好き。 人も、通りすがりの人とか撮る。 記憶力がわるくて、すぐ忘れちゃうから、 メモに近い感覚で撮ってる。「この感じ！！」っていうのを覚えておきたいから、撮る。素敵なものじゃなくても、「なんだこの感じ？！」というものも撮ってる。 文章に書くのは苦手。 １人でたたずんでるおじさんとか、撮っちゃう。 ちょっと怒られるところも撮ってるかも。	アメリカ文学やアメリカ文化の研究者。大学で英語、アメリカ文学を教えてる。翻訳からはじまって、英語文学の批評や日本語文学の批評、演劇の批評を書いたり、ドラマトゥルク的なこととをやったり。あまりなにかを決めずに関心あることをつないでいってみたいことを探す。まとめると、書くこと全般。	建築学科で大学の教員をしています。建築計画。建物ができたあとに、その建物がどのように使われているか研究。つぎに同じようなものが建てられたときに、よりよく使われるように。その延長で、いまは建築的な考え方を生かしてアートプロジェクトみたいなものに関わったりしてることが多い。美術系のものと、演劇系のもの両方に関わってる。最初2007年、富山のアートプロジェクト、そのあと取手のアートプロジェクトに関わった。これは美術系のほう。演劇のほうは、もともと劇場の建築の研究をしていて、専門ホールもたくさんできていた頃ということもあって、もっと中身の充実を考えたほうがいいのではと思い、稽古場とか練習室の調査をしていた。そのとき、太田省吾さんの稽古を研究対象で見ていて、そこで演出助手をやっていた阿部初美さんと知り合って。いまは、美術のほうと演劇のほうと重なったり、シンクロする部分もある。つくりかた研究所は、メンバーとしては演劇よりの人が多いけど、やろうとしてることは美術だ演劇だというジャンルにこだわるものではないと思うし、だからこそ今回のだれかのみたゆめは「展示と実演」と書いている。極端にいえば、美術と演劇って言い直してもいいのかもしれない。もともと建築なので、両方を扱っていて、美術からスタートしたわけでもなく演劇からスタートしたわけでもなく、建築から始めて美術の人と関係を持ったり、演劇の人と関係を持ったりしているから、両方が混在していることも問題なくすすめられている。 建物がどのように使われてるかっていうことから考える。たとえば劇場。劇場が、お客さん、アーティスト、スタッフにどう使われているか。活動ありき。そのなかでどういう活動が行われるか、その活動を行うためにどういう場を設定してあげるかというのが建築を考えるときのスタンス。つくりかた研究所を含め、活動をつるるためのフレームやシステムをつくることは、ぼくにとっては建築をつくっていることと変わりない。		一緒に組む人が、どうしたら全力を発揮することができるか考えてる。そういう環境にどうしたらなるか、そのケアを考えてる。人と仕事をしたほうがおもしろいし、自分では思いつかないことを人が思いつく状況がおもしろい。自分で全部思いついて実現して、それはあって良いんだけど、人が集まって、自分じゃいかないところまでいく。自分にとっても、他の人にとっても。単独じゃいかないところまでつくるものがいくとおもしろい。そのための環境や状況をつくることを考えてる。	舞台上で使う映像の演出プランと、舞台の記録映像。色んなアーティストと組んで話し合ってつくっていったり、記録映像はカメラマンと一緒に動いたりとチームで働くことが多いです。あとはWebサイトの構築などもやっています。 団体に所属しているわけではなくて、都度色んな人と一から関係を積み上げてプロジェクトを進めていくことが多いです。
なに考えているか	クリアに物事を見たい。 朝比奈くんの世界地図が面白い。 大枠をつかめたら、楽しい。	音楽の楽しみ方：iPadとか、低音が出ないでしょ、シャカシャカシャカシャカ、これって新しいミュージック・ライフ。	みんなカメラ持ってたから、自然に写真撮り始めた。 最初は手で巻くカメラから。 フィルムカメラだと、撮り方が変わる。デジタルだと沢山撮るけど、フィルムだと1枚を大事に撮ると思う。	病院に1ヶ月いて、健康で、お金も時間もあって、そういう人しかアートに触れられないのか、と。どうやって出掛けられない人たちに、アートとか、つくりかた研究所が考えてることとか届けられるのかな、って最近考えている。小劇場ってみんな貧乏そうだけど、超ブルジョワだなーって。健康じゃないと見れないし。	ピラミッドだって埋葬するためにつくられてるし、大聖堂だって教会というもののためにつくられてて、ある目的があってつくられてる。それが場合によっては機能が失われて、でもこの空間って良いよね、と遺跡みたいになってる。個人的にはそっちに向かってなくて。 僕自身は使われてなんぼだと思ってる。3331のリノベーションも。 どのようにしてあげれば、もともと学校だったものが新しい役割で使われるとき、より生き生きと使われるのか。使われることが一番大事。		元々音楽をつくることを勉強するために上京してきた。映像を始めたきっかけは音楽を展示する際に映像があった方がいいと考えたから。いまは映像の方が仕事になっているけれど、それは音楽よりも先に映像でお金をもらって仕事をする機会が増えていったからだと思う。
	ストーン・ローゼスすごい好きで、でもナマで聞いたことはなくて20年振りに再結成したバンドのライブに行ったんだけど、そんなに感動なかった。たぶんストーン・ローゼスは、「縁起物」なんだ。	昔僕が参加したパフォーマンスグループがあってそこで音楽についての公演をやったときに、一年間週一で出演者と音楽についての勉強会を開いたの、レコード持ち寄って発表しあって、それすごい勉強になった。みんなで、美学とか宗教とか色んな分け方しながら、持ち寄って。		書くことが好き。間接的にコミュニケーションとれるし。なにかを人に伝えるとき、「書く」ってことが自分にとっては一番得意だった。こうやってインタビューより、全部自分で書き起こしたいくらい。書きたいことはあまりない。何を、どうそれを伝えられるかに興味がある。材料はなんでもよくて、どう伝えるか。お題はなんでもいい。小説とかを批評するのは活字から活字だからできると思ってやってたけど、演劇について言葉で捉えようとするのはチャレンジングだった。それでやってみたんだけど、書けば書くほどむずかしくて、最近挫折気味。（笑）	劇場外で公演をするときも、どうそこを使っていくかってことを考えたりする。ある種劇場を設計しているような気分。		舞台の映像プランを考えることは、映像だけで完成された作品をつくることと全然頭の使い方が違っている。映像作品をつくるとなると、自分の中から出さなければならないことの比率が多い、学生の頃はそういったつくりかたしか僕は知らなかった。誰かと一緒にコミュニケーションをしながらつくることに面白さを感じたきっかけは舞台の映像プランでした。
	あそこの芝居見ると「ご利益ある」みたいになるといいな。自分がなにかやるときに、必ず晴れるみたいな人になりたい。 縁起物になれるんじゃないかな、 芸術や芸能にはそれができる。 社会にからみとられたくないな。	音楽オタクではない。自分の得意分野で生きていかなきゃいけないからね、音楽ってことで。 でかい声出すの好きかって？　好きじゃないね。穏やかに。 歌うのが得意、次はギター。最初はクラシックピアノ習っていた。ギターって独学の楽器だからギター始めてからはもう、小6くらい。		言葉と言葉をつなげて、リズムができたり、イメージがふくらんだり、視覚とか聴覚とかを排した次元で何が生まれるのかとか見るのが好き。 「黄色」といってもイメージするものがちがうから、そういうところが好き。 黄色い像とかを写真やアニメでつくるのは大変だけど、言葉は簡単につくれる。とっぴなものがすぐにつくれる。			もっと言うと、ミュージックビデオだったり映像作品をつくりたいと考える人は沢山いるけど、舞台の映像プランをやりたいと言う人には会ったことがない、なのでこれは自分がやる意味が続けていたら出てくると思った。
	社会って、システム。お金だって、表社会と裏社会では、価値がぜんぜんちがって、表社会のお金の価値は裏では通用しないわけで。 社会なんて、ないよ。	俺のジャンプあるよ。身体使う。作曲とかプロデュースとか頭脳労働が増えると、逆にジャンプとか、どんどん肉体派になってく、意外な30代後半かな。					他の人が頑張ってやりたいと思っていることを、自分も頑張ってやることがあまり好きじゃないです。（笑）
	逃走中。逃げるって楽しいんだ。 エスケイプしたかったんだ。 尾崎豊も言っている。「この支配された世界からの卒業」最近卒業した？ 卒業したほうがいいよ。 20世紀に変わるとき、カラオケボックスで何人かのアーティストから卒業した。	グループをつくる時？　電話して、こういうのやるよって。 中学校の時とかバンド組むために声かけてドラム始めてもらって、ベースあげてベース始めてもらって、そうしないとバンド組めないからね。					個人でパソコンと向かい合って映像をつくることが出来る僕は最初の世代だった。
	自由。自分で決めた由縁。自分で決めた卒業だから、不自由じゃない。	リーダーって嫌われ役ってところもあるからね。30歳くらいの時に幾つかの仕事をもらって、限界を超えちゃう時っていうのがある、作曲能力もそうだし、時間的体力的こと、ノウハウとか人間関係とかがあって、その時啓示のように言葉が降りてきて、自分の性格的には内容にこだわるしかないなあと思って、リーダーとしての自分を嫌うやつとか出てきてもしょうがないかって、結局いざという時には内容にしかこだわれない自分というのが出てくるわけだから、それ以外のことは二の次くらいに置いておこうとしたの、それ以来集団運営とかあんまり気を使わないようにしたの。気持ちの整理の付け方だと思うんだけどね。					僕はアーティストではないことに誇りを持っています。アーティストには出来ないことをやっていると思っている。アーティストに昔はなりたいと思っていた。でも世の中に出て思ったのは、アーティストは沢山いる。アーティスト予備軍も。いすぎだと思う。ただ、アーティストを手伝っている周りの人は、昔アーティストになりたかった人が多くって、そういう人は本当は自分もアーティストととして活動したいと思っているんじゃないかと憶測だけど思う。本当にアーティストを手伝うことに誇りを持っている人がどれだけいるんだろう。
	たとえば25mプールにゼリー作るとか、その話で盛り上がれる人と、「へー、大変だね」で終わる人…どっちかだよね	演劇とか映像の音楽って、音楽の都合じゃないところで拍を切らなきゃいけないそれがすごく面白い。演劇なら、例えば、下手っぴの人が下手っぴに歌うほど素晴らしい世界っていうならそういう音楽をつくればいい。他の人は制約に感じるかもしれないけど、僕は音楽がむしろ自由になれると感じて楽しい。					アーティストが思うことを全て叶えることがアーティストを手伝うということではないと考えている。アーティストと作品は別物。僕は作品をつくることを手伝っているのであって、アーティスト自体を応援したいというのとは違うんだよね。
つく研に参加した理由	長島さんに「どうですか？」って聞かれたから、「良いですよ」って。絆。 若い人となにかするの好きだから。	すごく面白そうだったので、長島さんに連絡して関わらせてくださいって。アトレウス家の本を読んで、ずっとプロセスと結果の関係について思い悩んでは来たので、プロセス重視で結果は結果っていうのは面白いと思った。	長島さんに声かけてもらって。 よくわからないけど、おもしろそうだなと。	年をとるほど、性格みたいに文章の型もきまってきちゃう。そういうのはずすのむずかしい。もう一回壊して改めて1から考えたいと思ってたときに、この「つくりかた研究所」に誘ってもらったので。あと、書くのは１人の作業だけど、共同作業で書くことを見つめ直せたらいいな、と。			長島さんって どうなんだよって最初から思ってる。確さんから声かけられて、いいよって。面白いなと思って。
長島さんとの関係			仕事で三宅島に行くフェリーが一緒で話したくらい。	翻訳で。			確さんとか慎也さんに、これを直接言うのは嫌だけど、僕は彼らに育てられたと思っている。彼らと一緒に仕事をすることを通して、彼らのつくりかたを学んでいった。あの二人は変だよ、それぞれ別々に。
今の研究所に思うこと	わからないな。来年終わるかもだし、でも10年くらいつづいちゃったり… たえずいろんな人がいて、いろんなことを感じてると思うけど、いま、なにかすごく大きな転換期にあることは感じる。 今のものが終わりをつげようとしている。 演劇の、フルモデルチェンジみたいなものが、あと20年くらいでおこるような。歌舞伎から翻訳劇が入ってきたときみたいに。 そのときの新しい演劇、新劇は政権をとったわけだけど、アトレウスはきっと今新しいんだけど、でも今新しいものが政権をとるかはわからない。社会にからみとられたくないけれども、でもフルモデルチェンジが一番わかるのは、社会が変わるときなんだろうな。	やってみるっきゃないねってすごい思っています。立ち止まったり思い悩むことも含めて、やってみるっきゃないね。	研究所は、フォーマットに沿わないところも、とにかく大事にしてる。それで進まない現状はあるとして。私はそれを自分のことに持ち帰って、私のフォーマットもなくしてみようって思える。それはすごく良い。 みんなもひょっとして、それぞれの活動でそれをやってるんじゃないかなと。そういう還元の仕方になってるのかなぁって思う。 1回フォーマットを疑う、それじゃなくてもいい方法があるかもしれない、という希望みたいなことを、都のお金でやれてるということが、希望。アウトプットが求められるのもわかる。でも、これは3年どころのことではないかも。それぞれが持ち帰ってのことかもしれない。	【大人ですか？】 社会的に押し付けられるものかな？ 【ベテランってどうですか？】 ベテランって呼ばれてるけど、ベテランとは思ってない。 つくられたものに関して書いて伝えることとかはやってきたけど、つくるってことに関してはベテランじゃなく、素人。 書くことって、だれでもできるからね。みんな生きてれば書いてるしね。だからベテランってわけでもない気がするな。	つくりかた研究所、そのなかに研究室があって。 一方で大学で研究室をやってる。自分が考えている延長のことを学生たちと一緒にやってる。 それとかなり似ていながらも、ぼく自身の興味だけではない、いろんな興味をもってる人が集まって、いろんなことを考えているという状況がある。 オルタナティブな大学みたい。ここからどういうものが生まれるのか、現状というよりも、今後が楽しみ。こういうことを経験した人たちがこの先、全然ちがうものを作り出していったりするのかな、と。だから、みんなが良い意味で自由にできる場がつくれたらいいな、と。 いま、自分がなにかをやろうとしたときに味方になってくれるのが卒業生だったりするから、将来的になにかをやるとき、これは研究所の誰々と一緒にやっていくといいんじゃないか、ってことになってったら面白いな。もちろん、研究員たちだけでやるのもいいんだけどね。 「だれかのみたゆめ」つくりかたを考えてることの報告であって、作品というか、ある種デッサンみたいなものかな。	今いろんなことが進んでないけど、 それは狙い通り、キャスティングの必然。 パリパリすすめる人たちでない人をとったので、その分時間はかかってる。それは狙い通り。	このまま終わるわけがないですよね。まだ蓋は開いていない。 つくりかた研究所自体が表現だと思っています。 今までやったことのないことをやろうと思っている。 でも研究室に分かれてから、研究・リサーチ型の単なるアートプロジェクトになっているのが外から見ていたら心配かな。
やりたいこと	社会から抜け出して、神になろう。	やりたいことはやってるからなぁ… 賢くなりたいですね。賢いことにコンプレックスがあるから。理路整然と、こう、やって、それでいていきなりジャンプするような人に、なりたいですねぇ。	最近、絵を描いてる。線を引くくらい、楽な気持ちで撮れたらいい。慎重にこうしてこうしてって描くのではなくて。すごいうまい人って、ささささーって描く。それって気持ちとかのってると思う。精神統一みたいな。そういうとこまで常に状態をもってくことで撮れる写真てある。そうなったらいいなぁ。修行〜。 役者さんとかスポーツ選手が本番に気持ちをもっていくのとちょっと似てる。気持ちというか、有り様（ありよう）。	文章を書くにも、いろいろな型があるけど、 つくりかた研究所ではそれをとっぱらって考えていきたい。 机をどう記述するかとか。記述の仕方を1から研究したい。 たとえばこの机をどう記述できるのか。言葉だけでこの机をどう描写するかって訓練からはじめて、どうしたらこの机をどう伝えたら面白く読んでもらえるかとか、欲しいと思ってもらえるかを、どう書いたら伝えられるか、そういう言葉の可能性を考えたい。つくりかた研究所の活動としても、これまでやってきたことを外部に発信するとき、なんとなくアーカイブにするのではなくて、つくりかた研究所ならではの言葉、方法を考えていきたい。海外からこの机をみるためだけに人がくる！！みたいな感じの書き方とかね、それがウソじゃなくて。			映像というものに向き合う時間と環境というものの大切さを気付かせていくようなことがしたいと考えている。具体的には、上映会をしたい。それは僕がつくったものだけではなくて、色んなものを扱えたらいいと思っている。舞台の記録、美術、アートプロジェクトの記録など。大きい画面で良い音響で観るときに、どうしても粗、質の悪さが見えてくると思う。その時に、記録を撮ることの質の重要性が、改めて問われることになると思う。
若手に言いたいこと		一杯あるけど。 みんなでお酒飲んだりしないじゃないですか、どうやって仲良くなるのかな。ほんとにめちゃくちゃフランクに話をする機会がないと思うんだけど、どうやって親密さ近さをつくっていくのかな。仲良いっていうのは仲悪いっていうのも含めなんだけど。		つくりかた研究所を生かせてますか？って聞きたい。 私も学生のときいろいろやってたけど、あっというまに終わっちゃった。2年たって、終わったあとに何か残りそうな感覚は持ってるのかな？やりたいこととか、やりたくなくても、自分らしさとか考えるきっかけになるような機会をどこでつくれるかな、って。なんとなく終わっちゃったらもったいない。周りの人気にせずやったらいい。演劇とか、共同作業だから空気読んだりもするだろうけど、"出禁になるくらい、やっちゃえばいい。どんどんやっちゃえ。最後泣きながら和解するみたいな（笑）。 考えてることどんどん言えばいい。人の企画とか、おもしろ〜ですねーって思ってないこと言わないで、超つまんないって言って、全部話し合ってやれること、つくれるものを探してみるってほかの場ではできないことだからやって欲しい。普通の場所だとできないことができるのがつくりかた研究所じゃないかな。現場だと、妥協することが大事だったり、あるものでつくるって作業になる。あるものでつくらなくていいって考えて1回やってみて欲しい。	研究員たちなりのやり方や考え方があるので、あんまり自分がやっているようなやり方を必要以上に押し付けてはいけないと思いつつも、でもなかなか前に進まないときもあったり…それが良いときもあるし、でもどこかで…まとまるというか…プロジェクトとして形になるのかなぁ…と、様子を見ながら押さなきゃいけないときもあるのかなと思いつつ、押しちゃいけないなと思いつつ。そこが難しくもあり楽しみでもある。開室日、部室のような妙な時間のながれで、ある見方からは無駄な時間にも見え、でもああいう時間がないとだめになる部分がある気がする。もっと先になると、無駄な時間に見えたけどあの時間に豊かさがあったのかなと思えるような空気が若手研究員にある。そこは信じたいし、可能性がある。と思いつつ、そのためには、そのあとになんらかのことがないといけないのかなぁと思いつつ…。	一環したキャスティングはしているけれども、でもそろわないで欲しい。バラバラにそれぞれやりたいことやって欲しい。横並びにならないで欲しい。	みんなコミュニケーションが下手。コミュニケーションのツールに振り回されている。 「電話しろよ」ってことかな。
ベテランに言いたいこと						それぞれ持ち味、得意技をもってる。それを発揮して欲しい。その一方で、あえてそれとは違うチャレンジをする可能性もあると思うので、それも試して欲しい。	直接言います。散えてなんかビデオで誰かに聞きたいというのはないですね。
創設者の野望						［希望と野望］ 希望：あとの人に、使える道具が残ること。 1こ作品をつくったり、イベントを成功させることが目的のプロジェクトではない。美しい壷をつくってそれが後世に残ってもあんまり意味がない。それより、使える道具、アイディア、考え方、失敗も含めているんなものがあとに残ればいいな、と。 野望：研究所が、透明になって、あまねく存在するようになればいいな。	
特別質問		［演奏で行った外国は？］ パリ、ロンドン、フィリピン、マレーシア、シンガポール、韓国、ロシア、ウクライナ、リトアニア、トルクメニスタン、アゼルバイジャン、ウズベキスタン、グルジア、トルコ、エジプト、ハンガリー、タイ	［写真と社会］ 行って、写真撮るのは、やじうまっぽい。こっちの気持ちが伴ってないのに、行ってもな〜と思う。よこしまな気持ちとかあると、変なことになりそう。気持ちがないとまずいと思う。			［新しいつくりかたをつくる］ 1つは勉強すること。いろんなつくりかた、出来上がったもの、アート以外のものも含めてインプットが大事。そのうえで、必要なことがあれば新しいものがでてくるのでは。もう1つは、試すこと。失敗も含めてやってみることが大事。つくりかた研究所は、組織自体をどうするかからスタートしてるから、結局ありきたりのことになってしまうかもしれないけれども、それも必要なプロセスだった。 その一方で、研究所は、まだ本当はこれからだと感じる。 つくりかた研究所、どんどん変わると思う。去年から今年にかけても変わってるし、来年も変わると思う。 変わらないとやばいと思う。	［つくりかた研究所でやりたいことは？］ 僕は研究やリサーチは苦手なので訓練所をつくりたいと思っています。研究室ばっかりで、訓練所とか体育館があった方がいいと思っています。 黙々と各々が自身を鍛えあげていくような場所。 自分自身が出来ること出来ないことと向き合って、一人一人が出来ることを増やしていかなきゃいけないと思う。
特別質問		［面白いものをつくる時に仲間意識は必要？］ 二の次ですね。 明日の朝には変わっている訳だからね「面白さ」って。	［仕事にすること］ やりたいことを理解してくれて、オファーしてくれたらすごく良い。あまりにも要求が窮屈だとちがうものになっちゃう。ちがうものっていうのは、その人がやる意味がない、単なる技術提供になってしまうもの。それは機械でいいよ。			［子供好きですか？］ △　イエス&ノー。イエスとも言えるけど、一緒にムキになっちゃうから、避けたいとも思う。（笑）	